

国土数値情報の整備・利活用に関する 取り組み報告（令和7・8年度）

国土交通省 政策統括官付
地理空間情報課
2026年3月12日

今後の国土数値情報の整備のあり方検討会 最終とりまとめ（令和6年7月25日公開）振り返り

国土数値情報の概況

(歴史と現状)

- 整備開始より50年(一般公開して20年以上(民間企業での利用が拡大))
- 国土の基礎的な情報(約190項目)を提供し、年間ダウンロード数は200万件以上(令和5年度)
- 一方、整備にあたっては厳しい予算制約

(特徴)

- 統一したフォーマットでパッケージし、無償で提供。多様なデータを組み合わせて利用しやすい環境を提供
- 全国のデータを過年度分も含め提供。特定のエリアや時点の分析のみならず空間的、時間的にも広範な分析が可能
- 公的な情報を原典とし、検査基準を設けることで高い品質を確保。信用できる情報として利用が可能

(意義)

- 信頼できるGISデータとして社会的に認知されている存在
- 行政機関や民間企業が保有・提供する様々なデータと組み合わせることで、正確性の高い分析等を行うことができる、我が国の重要なインフラデータ

国土数値情報を取り巻く環境(時代の要請)

- 地理空間情報関連技術の進展・普及(AI判読、点群データ等)
- 国によるDXの推進(オープンデータ化推進、デジタル田園都市国家構想等)
- データを活用する社会の実現(EBPM、デジタル人材の育成、スマートシティ政策等)

デジタル技術・データ活用による社会全体の生産性向上に貢献する国土数値情報に

今後の国土数値情報の方向性

- 引き続き、社会の重要なインフラデータとしての機能を果たすため、国土の基礎的な情報(位置・属性)を一定の精度を担保して整備し、広く提供していく
- さらに、今後のデータ活用社会に貢献すべく、ニーズを把握し、新たなユーザーを取り込みながら、**より開かれた・使われる国土数値情報**への転換を進める

これらの方向性に沿って、3つの論点から整備方針を検討し、各論点における課題と対応策をとりまとめた

整備方針の検討における3つの論点

ニーズ(行政・民間)の把握

ユーザーの拡大

効率的な整備手法・提供方法

3つの論点における課題と今後の対応策

課題

ニーズ(行政・民間)の把握

- ユーザーニーズや利用シーン、活用事例を十分に把握できていない
- ユーザーアンケート以外の方法での個別ユーザーのニーズの把握方法がない

ユーザーの拡大

- 新規ユーザーを拡大するための新たな取組みが実施できていない
- 商用利用不可・公開不可となっているデータが存在しており、商用目的のユーザーを取り込めていない
- 整備計画等の情報提供が十分にできていない

効率的な整備手法・提供方法

- 原典資料がGISデータ化されていないことが効率的な整備を阻害
- どのデータ項目を整備するか明確な判断基準がない
- 一部目視作業を行っており整備の自動化ができていない
- 検索性が低くユーザーが必要な情報にたどりつけない
- ダウンロードサイトの操作性が低い

今後の対応策

官民各主体のニーズ把握

- ・ ラウンドテーブル形式で意見交換を実施し有識者、民間企業等からのニーズ、利用シーンを把握
- ・ 国、地方自治体等へのニーズ調査アンケートを実施
- ・ ユーザーのデータ整備・更新の要望や活用方法等を投稿できる仕組みをダウンロードサイト内に構築し、多様な意見が集うオープンな場を設ける

新規ユーザーの利用促進に向けた取組

- ・ データサイエンティスト等の参加を募ったデータ活用コンペ等の開催
- ・ ベースレジストリとしての位置づけに向けた検討
- ・ 自治体職員や市民への周知

商用利用に向けた取組

- ・ 商用利用不可・公開不可データをオープンデータ化するための原典保有者との調整

効果的な情報発信

- ・ 整備計画、活用事例等の発信
- ・ SNS等の活用

原典資料のGISデータ化の支援

- ・ ガイドライン等の作成・普及を所管省庁と連携して実施

データ整備・更新の判断基準となる評価軸の設定

- ・ 信頼性等の評価軸を設定して総合的・合理的に判断できる仕組みの構築

新たな技術の活用

- ・ AI技術の導入可能性を検討

アクセス性向上

- ・ e-GOVポータルへの登録、メタデータへのアクセス性の向上、属性情報のわかりやすい表示

ダウンロードサイトの仕組みの改善

- ・ 一括ダウンロードやファイル形式等での選択式ダウンロードの実施

国土数値情報関連の取組

- 洪水浸水想定区域データについて、年度の前半で整備完了した分のデータを先行公開
- 雨水出水(内水)想定区域データを新規整備・公開

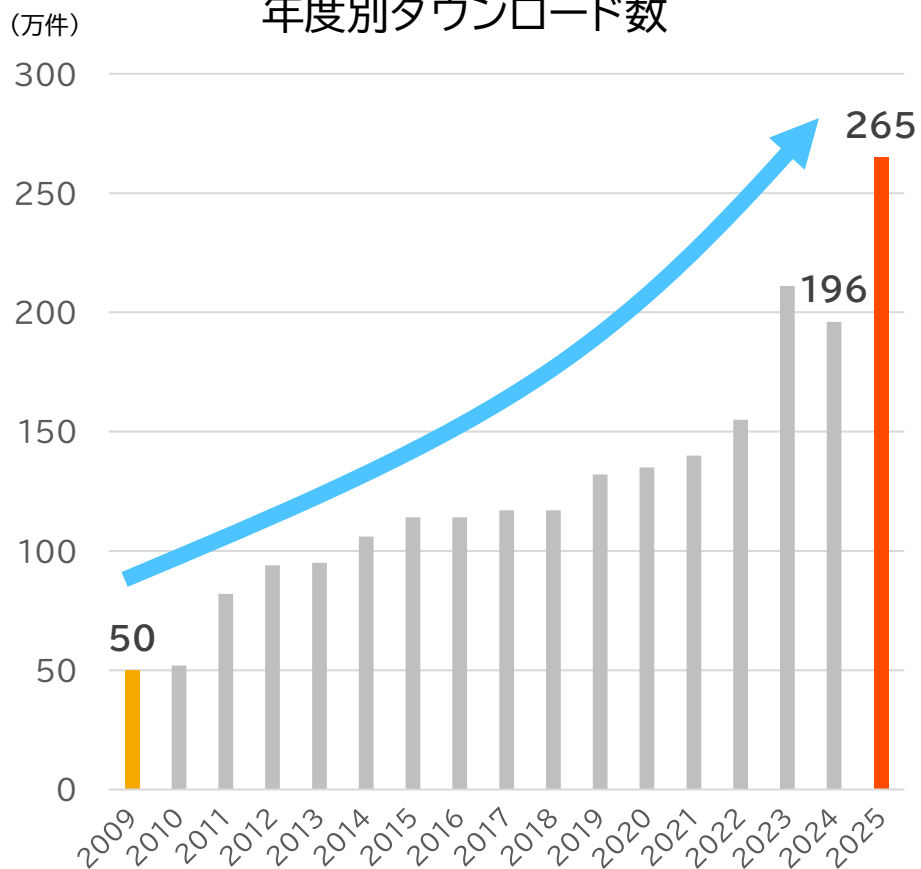
データ公開日	公開データ項目 (赤:新規整備データ 青:データ追加)	データ整備年度
2025/5/30	<ul style="list-style-type: none"> • 洪水浸水想定区域 (河川単位/1次メッシュ単位) • 津波浸水想定 • 高潮浸水想定区域 • 多段階浸水想定 • 雨水出水(内水)想定区域 • 土砂災害警戒区域 • 緊急輸送道路 	令和6年度
2025/6/30	<ul style="list-style-type: none"> • 行政区域 • 鉄道 • 駅別乗降客数 • 鉄道時系列 • 高速道路時系列 • 位置参照情報 	令和6年度
2025/9/17	<ul style="list-style-type: none"> • 都道府県地価調査 	令和7年度
2025/11/25	<ul style="list-style-type: none"> • 洪水浸水想定区域 (河川単位) 	令和7年度
2025/11/28	<ul style="list-style-type: none"> • 都市計画決定情報 	令和6年度
2025/12/19	<ul style="list-style-type: none"> • 三大都市圏計画区域データを非商用からCC-BY 4.0(オープンデータ)に変更 	
2026/3月	<ul style="list-style-type: none"> • 地価公示 	令和7年度

- 新規データとして、宅地造成等公示規制区域・特定盛土等規制区域データおよびゼロ次谷データを公開
- 30年ぶりの更新である道路データの公開を最優先として進める意向

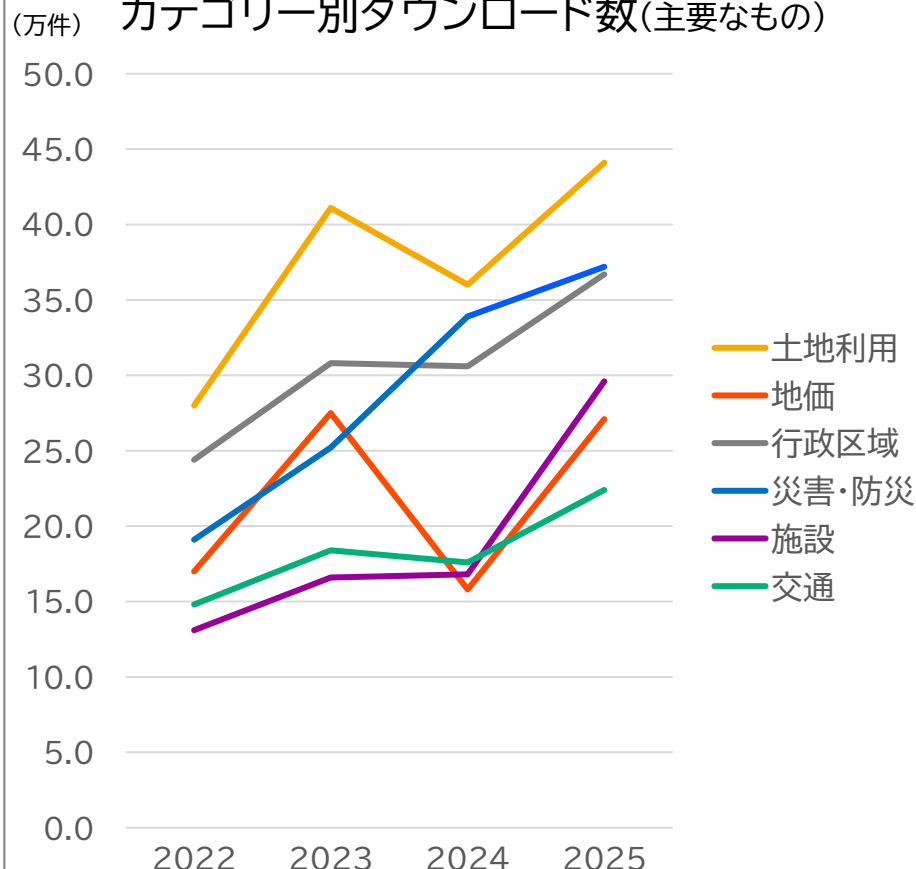
データ公開予定日	公開データ項目 (赤:新規整備データ 青:データ追加)	データ整備年度
2026年4～6月	<ul style="list-style-type: none"> • 道路 	令和6・7年度
	<ul style="list-style-type: none"> • 洪水浸水想定区域 (河川単位/1次メッシュ単位) • 多段階浸水想定 • 雨水出水(内水)想定区域 • 土砂災害警戒区域 • 宅地造成等工事規制区域・特定盛土等規制区域 • 0次谷 	令和7年度
2026年9月	<ul style="list-style-type: none"> • 行政区域 • 鉄道 • 駅別乗降客数 • 鉄道時系列 • 高速道路時系列 • 位置参照情報 • 国有林野 	令和7年度
2026年11月	<ul style="list-style-type: none"> • 都道府県地価調査 	令和8年度
2027年3月	<ul style="list-style-type: none"> • 洪水浸水想定区域 (河川単位) 	令和8年度
2027年3月	<ul style="list-style-type: none"> • 地価公示 	令和8年度

- 令和7年度のダウンロード数は約265万件となる見込みで、昨年比130%超と大きく増加
- 引き続き、土地利用や災害・防災カテゴリのデータのダウンロード数が多くなっており、昨年度落ち込んでいた地価公示・都道府県地価調査データのダウンロード数も令和5年度水準に回復

年度別ダウンロード数



カテゴリ別ダウンロード数(主要なもの)



(2025年度の数字は、2026年3月時点での着地見込み)

- ダウンロード数が多いデータの傾向には大きな変化は見られない
- 前述の通り地価公示・都道府県地価調査のダウンロード数が一昨年の水準まで戻っているほか、ヘリポート、学校など特徴的な施設データの伸びが目立つ

	2025年度		2024年度		2023年度	
	DL数(2月まで)	順位	DL数	順位	DL数	順位
行政区域	301,557	1	246,682	1	235,609	1
土地利用細分メッシュ	233,640	2	169,719	2	172,628	3
地価公示	175,494	3	120,620	3	174,431	2
土地利用3次メッシュ	113,043	4	93,024	4	132,231	4
都道府県地価調査	95,196	5	36,895	12	100,632	5
洪水浸水想定区域(1次メッシュ単位)	91,960	6	57,040	8	43,910	9
洪水浸水想定区域(河川単位)	69,967	7	64,373	7		
平年値メッシュ	69,839	8	74,744	5	53,585	6
標高・傾斜度5次メッシュ	56,997	9	65,252	6	46,352	8
河川	49,499	10	55,338	9	49,528	7
上位10データ	1,257,192 (全体の50.6%)					
標高・傾斜度3次メッシュ	43,379	11	39,946	11	39,883	10
ヘリポート	37,431	12	20,890	22	20,254	27
学校	36,536	13	16,228	30	14,859	34

データコンペ(第2回 地理空間情報データチャレンジ)

利用シーンの拡大を目的としたデータ活用のコンテストイベントの開催や他のイベント等との連携等を検討する

- 地理空間情報の利用シーン・ユーザー拡大を目的として、データサイエンティストを対象とした国土数値情報等のデータを活用した「不動産売買価格推定」のモデル精度を競うデータコンペを開催
- 初開催の昨年に引き続き2年目の開催、優秀者はG空間EXPOで表彰（令和8年1月28日実施）

【第2回 国土交通省 地理空間情報データチャレンジ】

主催：国土交通省 政策統括官付地理空間情報課
 運営事務局：一般社団法人不動産建設データ活用推進協会

【協賛企業および提供データ・提供環境】

競技テーマ	不動産の売買価格を推定する予測モデルの構築 (国土数値情報の利用が必須)
評価方法	予測精度による定量評価 (評価用データセットによる自動評価)
開催期間	令和7年11月14日(金)～令和8年1月9日(金)
表彰式	令和8年1月28日(水) @G空間EXPO
参加者数	1,673名 投稿件数:15,447件 (昨年度:1,532名 / モデリング部門1,387名 投稿件数 9,680件)



表彰式の様子(G空間EXPO セミナー会場2)



指摘されたエラーについて、その内容や修正時期・修正履歴等をユーザーにも共有し、データの利用時に注意するよう促す

- 令和7年3月27日に、「エラー情報公開ページ」をリリース
- 今年度から本格的に運用を開始し、問合せの中から毎月5件程度をエラー情報として公開している

国土数値情報		位置参照情報	国土調査	地図で見る	
		ジオコーディング (住所⇄緯度経度)	土地分類調査・水調査		
2025/12/10	都中計画決定情報 岐阜県多治見市 熊本県長洲町 鹿児島県阿久根市 沖縄県南城市	2024年度 (令和6年度) 版	・鹿児島県阿久根市(46206)の公園(kouen)が水玉模様になっている。 ・岐阜県多治見市(21204)の特別用途地区(tkbt)が水玉模様になっている。 ・沖縄県南城市(47215)の風致地区(fuuchichiku)が大量に分割されている。	データの誤りを確認しました。 修正時期は未定です。	修正時期未定
2025/12/1	行政区画 河川 洪水浸水想定区域 (河川単位) 都市計画決定情報	2025年度 (令和7年度) 版 2009年度～2006年度 (平成21年度～平成18年度) 版 2024年度 (令和6年度) 版 2024年度 (令和6年度) 版	GML形式「行政区画」「河川」「洪水浸水想定区域 (河川別)」 CityGML形式「都市計画決定情報」 XML文書としての妥当性検証においてエラーが検出された。	データ不備の有無を調査中です。	調査中
2025/11/28	地すべり防止区域	2021年度 (令和3年度) 版	都道府県が公開しているデータと一致しない。	データ時点の違いによるものため、国土数値情報の品質基準上は問題ありません。	整備時点と現状との差異
2025/11/21	福祉施設 富山県	2015年度 (平成27年度) 版	富山県氷見市の上庄保育所が福井県大野市内に表示される。	データの誤りを確認しました。 ただいま修正対応中です。	修正対応中
2025/11/18	2026/1/16 駅別乗降客数	2023年度 (令和5年度) 版	XMLファイル ・2023年の乗降客数が表示されない。 ・「茗荷谷」が文字化けしている。	データの一部を修正しました。	修正データを公開
2025/11/18	急傾斜地崩壊危険区域 地すべり防止区域 砂防指定地	2021年度 (令和3年度) 版 2021年度 (令和3年度) 版 2023年度 (令和5年度) 版	①実際には該当区域が存在する都道府県であっても、データがダウンロードできない都道府県がある。 ②「急傾斜地崩壊危険区域」がポイントデータや円形ポリゴンになっている都道府県がある。	①国土数値情報で公開しているデータは各都道府県の実際の該当区域の有無と一致していません。「各都道府県のデータの利用条件について (Excelファイル)」に掲載がある都道府県のみを公開しています。 ②原典資料通りのため、国土数値情報の品質基準上は問題ありません。	エラーに該当せず

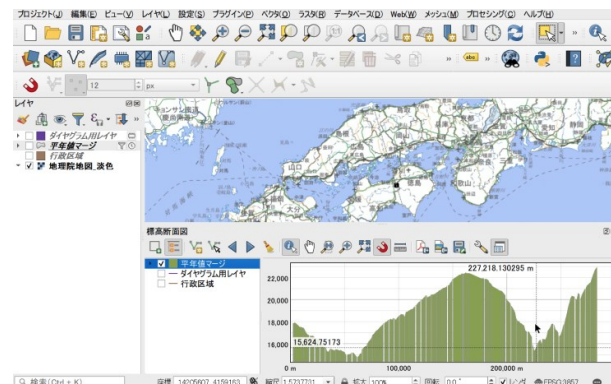
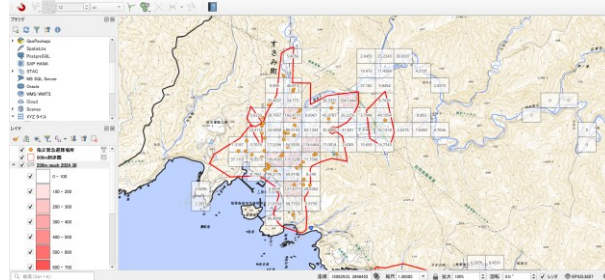
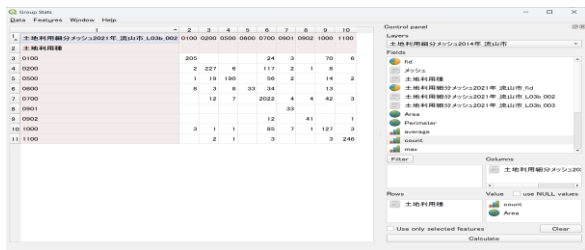
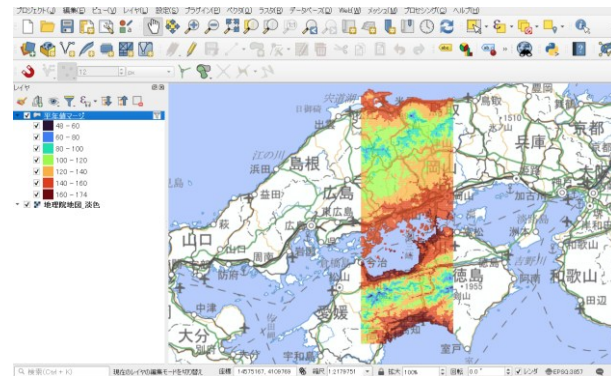
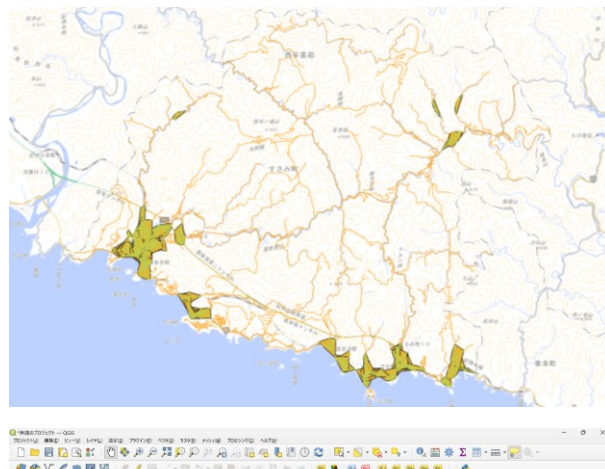
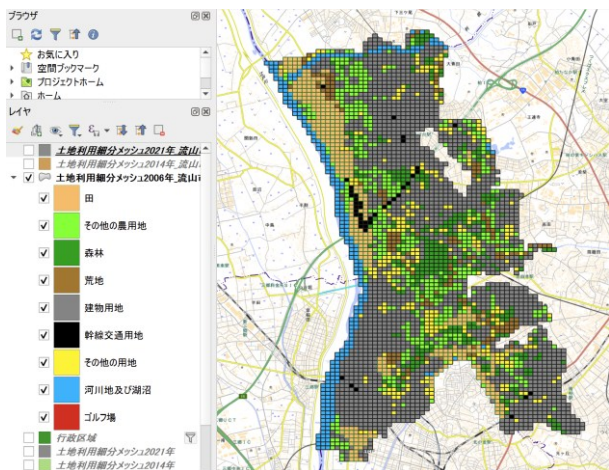
これまで国土数値情報を利用していない自治体職員や市民に対しては、データの存在や利用方法について情報周知を行い、認能度向上と利用促進に努め、ユーザーの一層の拡大を目指す

- 昨年度に作成好評であった「QGISによる国土数値情報活用マニュアル」について、ダウンロード数の多いデータや来年度公開予定のデータを用いた分析事例を3記事追加

国土数値情報 **土地利用細分メッシュデータ**と
QGISを活用した都市開発の変遷把握

国土数値情報 **道路データ**と
QGISを活用したネットワーク解析
～津波避難困難地域の分析～

国土数値情報 **平年値メッシュ**を題材とした
QGISにおけるデータ表現テクニック
～アニメーション、ダイアグラム、断面図～

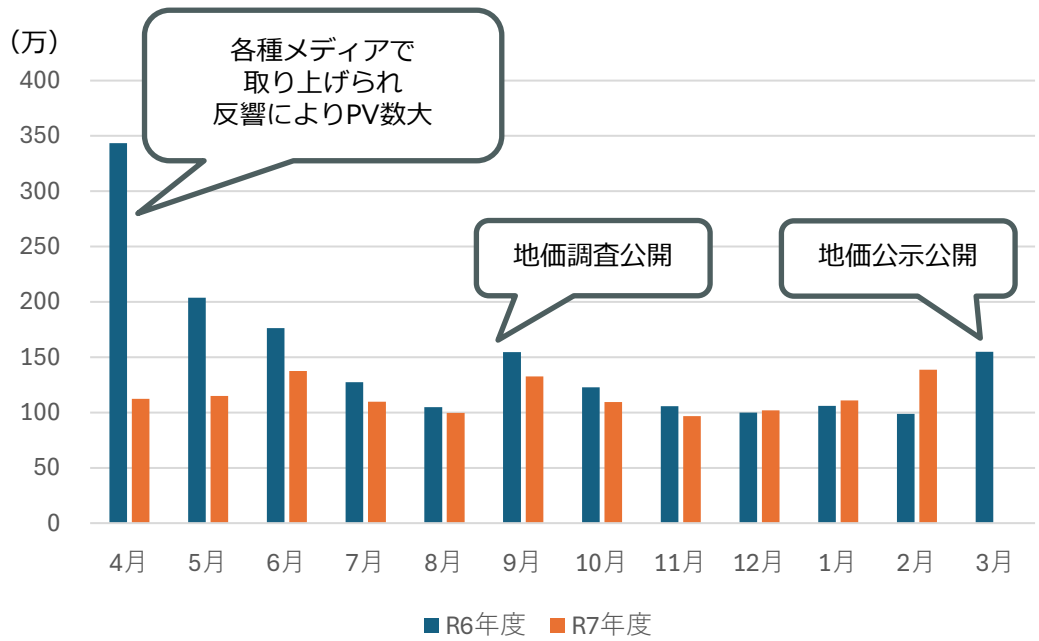


イベント登壇等実績	
4月	<ul style="list-style-type: none"> 不動産DXカンファレンス2025 登壇 技研商事インターナショナル ウェビナー
5月	<ul style="list-style-type: none"> 人工知能学会全国大会 セッション登壇 GISコミュニティフォーラム基調講演、政府機関セッション登壇 ロケーションビジネス&マーケティングEXPO2025 ブース出展、登壇
6月	<ul style="list-style-type: none"> JARECOカンファレンス2025 講演 Digital北海道研究会総会 講演 国交大 地域公共交通研修 講師参加 KDDI 人流データ利活用セミナー LBMA加盟会員向けセミナー
7月	<ul style="list-style-type: none"> ジオ展 ブース出展 Azure GovTech Day 2025登壇 土地バンクフォーラム パネルディスカッション
8月	<ul style="list-style-type: none"> KDDI 長野県自治体向け人流データ分析セミナー
9月	<ul style="list-style-type: none"> GISコミュニティフォーラム in北海道 【国交省×不動産テック協会】ビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」紹介セミナー
10月	<ul style="list-style-type: none"> GISコミュニティフォーラム in中部、in九州、in関西 CEATEC2025 ブース出展 国交大 地域公共交通研修 講師参加 CEATEC セミナー登壇
11月	<ul style="list-style-type: none"> 日本不動産学会秋期全国大会ワークショップ登壇 東京大学寄付講座「建築・都市DX人材育成プログラム」登壇 GEOTRA INCITYオンライン勉強会 登壇
12月	<ul style="list-style-type: none"> JAPAN BUILD TOKYOセミナー登壇
1月	<ul style="list-style-type: none"> G空間EXPOメインステージイベント 東京都市大学 空間情報科学 集中講義(講師) 第2回 国土交通省 地理空間情報データチャレンジ 表彰式
2月	<ul style="list-style-type: none"> 国交大 地域公共交通研修 講師参加 横浜市立大学 リカレントプログラム 位置情報データ活用講座 位置情報ビジネス&マーケティング オンラインカンファレンス 人流データ 今年度事業成果報告会・普及イベント
3月	<ul style="list-style-type: none"> 「建築・都市のDX」カンファレンス ~3次元デジタルツインの普及・浸透に向けて~ 九州から実践する「位置情報×AI」ビジネスサミット2026 登壇

地理空間情報課の取組(国土数値情報以外)

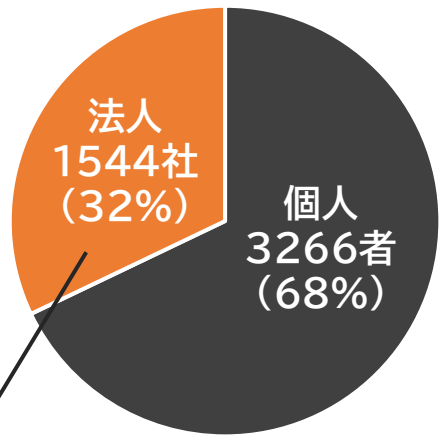
- 2024年4月の運用開始からの毎月100万以上のページビューがあり、誰もが不動産情報を容易に閲覧できるサイトとして安定的に稼働
- システム連携サービス(API)の申請者も累計4800者を超え、不動産業以外の業態も多く利用

ページビュー数(2024/4/1~2026/2/28)



2月28日(24時時点)の累計PV **30,622,692回**
※うち、スマートフォンでの閲覧:26%、PCでの閲覧:74%

API利用申請者件数(4810者)



- 不動産関係業種**
:デベロッパー、ハウスメーカー、不動産テック、不動産鑑定、物件ポータルサイトなど
- 不動産以外の業種**
:自治体、保険、通信、マスコミ、運輸、など

※代表的な利用者を太文字で記載

累計APIリクエスト数(合計129,398,900件)

■防災情報の充実化

①災害履歴情報の追加

過去に発生した災害の分布となる「災害履歴(水害・土砂災害・地震災害)」を、12月に地図およびAPIに追加

②防災情報のAPI配信開始

すでに地図上で公開している洪水浸水想定区域(想定最大規模)、津波浸水想定、高潮浸水想定区域、土砂災害警戒区域、指定緊急避難場所を11月にAPI配信開始



災害履歴と洪水浸水想定区域(想定最大規模)土砂災害警戒区域を重ね合わせ

■利便性の向上

①都市計画・人口情報の追加

- 掲載ニーズの高い都市計画道路、人口集中地区を地図およびAPIに追加。
- 今後もアンケート等でニーズのヒアリングを行い、コンテンツを追加またはより良いコンテンツへ変更予定。



②API操作説明ページの充実

- より広くAPIを利用いただくためにサンプルコードやエラー時のフローを追加。
- 一部スタイル情報(地図表示の色など)を公開し、IPA(情報処理推進機構)が推進しているオープンソース化を図る。



カラーコードやサンプルコードの例示

③Googleマップ呼び出し機能追加

- 地価公示・都道府県地価調査の詳細画面から、その地点のGoogleマップを簡単に閲覧できるように連携。
- これにより、ユーザーの皆様の利便性を向上。



○ LIFULL HOME'S PRESS上において、不動産情報ライブラリの概要、特にニーズの高い価格情報の詳細解説、API利用方法の紹介、新規データの説明などを全6回にわたり記事投稿



国土交通省「不動産情報ライブラリ」が運用開始から1周年。令和6年度の利用実績と令和7年度の予定を担当…

国土交通省では不動産取引の際に参考となる情報を重ね合わせて表示できるWebGIS「不動産情報ライブラリ」の運用を行っている。これまでどのような利用実績があったのか、データを紹介します。続きを読む

2025年 05月15日 06時00分



土地取引の指標を簡単表示。「不動産情報ライブラリ」地価公示・地価調査の便利な検索・表示方法

国土交通省が運用する「不動産情報ライブラリ」は、オープンデータ等を活用し、不動産取引の際に参考となる情報を表示できるものだ。今回は注目度の高い、土地取引の指標となる地価公示と地価調…続きを読む

2025年 06月23日 06時00分



不動産の取引価格を掲載した国土交通省「不動産情報ライブラリ」。取引価格と成約価格の違いや活用方法のポ…

「不動産情報ライブラリ」は不動産取引の際に参考となる情報を重ね合わせて表示できるシステムだ。機能や情報について、運用している国土交通省が解説する。続きを読む

2025年 07月24日 06時00分



不動産情報ライブラリのAPI活用事例【前編】API詳細と内閣官房主催「イチBizアワード2025」…

国土交通省が提供するWebGIS「不動産情報ライブラリ」は、不動産取引の際に参考となる情報を重ね合わせて参照できる。またこれらは、地図上でのデータ閲覧だけではなく、掲載情報の一部…続きを読む

2025年 09月03日 06時00分



不動産情報ライブラリのAPI活用事例【後編】API詳細と内閣官房主催「イチBizアワード2025」…

不動産情報ライブラリは不動産取引の際に参考となる情報を一元的に集約したデータベースである。APIの表示方法や、実際の活用方法について解説する。続きを読む

2025年 09月23日 06時00分



不動産情報ライブラリに新機能追加。「災害履歴」とは？データの詳細をご紹介

不動産情報ライブラリではユーザーの要望を受け、ニーズが高い災害履歴を追加した。これらはハザードマップと組み合わせることで、より地域特性を踏まえた防災計画を立てることができる。続きを読む

2025年 12月18日 06時15分

APIの活用方法。QGIS表示について

④「接続の詳細」のウィンドウに戻るのも、そこでもOKを押す(②)。すると「Vector Tiles」に「地価公示ポイント」が追加される(③)。

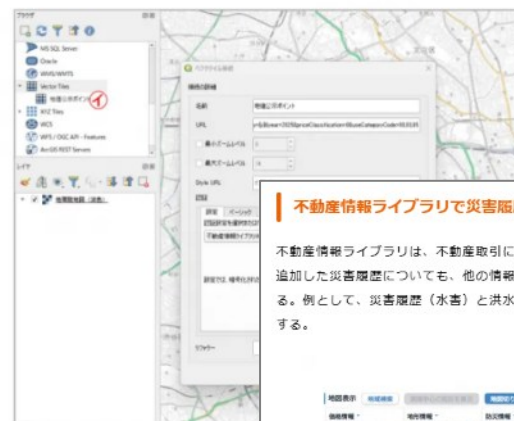


図4 API

⑤「地価公示ポイント」をダブルクリックしてのポイントが地図上に表示されるので、各ポイント(②)が確認可能となる。パラメータ設定に地価公示のみが表示されている。

⑥この状態では、背景地図がないので、地理院のURLを参照する。

<https://niftp.mlit.go.jp/ksj/other/QGIS>

不動産情報ライブラリで災害履歴を活用するには

不動産情報ライブラリは、不動産取引に関する情報を重ねあわせることが特徴である。今回追加した災害履歴についても、他の情報と重ねあわせすることで地域傾向などをみることができ。例として、災害履歴(水害)と洪水浸水想定区域(想定最大規模)を重ねあわせて地図表示する。



図7 災害履歴(水害)と洪水浸水想定区域(想定最大規模)を重ねあわせ

災害が起こる確率を示すハザードマップと実際に災害が起こった履歴の情報を重ねて可視化することで、より地域特性を捉えることができる。日本は災害が多い国であるが、地域によって起こりやすい災害は異なる。地域特性を把握し、自分の住まいや通学・通勤路などにおける防災対策の検討に役立ててほしい。

- 不動産情報ライブラリに関して一般ユーザのご意見を伺うため、国土交通行政インターネットモニターを対象にアンケートを実施し、結果をとりまとめて公表
- いただいたご意見を、今後の追加コンテンツの選定や機能改良案等に反映

■回答結果まとめ

知名度と課題

- ・**不動産情報ライブラリの知名度は6%**と、ほとんど知られていない
- ・取組については一定評価されており、**知名度をあげてより広く利用されるための広報を行うことが課題**

操作性と課題

- ・地価公示や将来推計人口を表示できた方が60%以上いる一方、「操作がわからない」「操作説明がわかりにくい」「検索しにくい」といった回答をいただいており、**操作性および操作の周知方法に課題がある**ことがわかった。

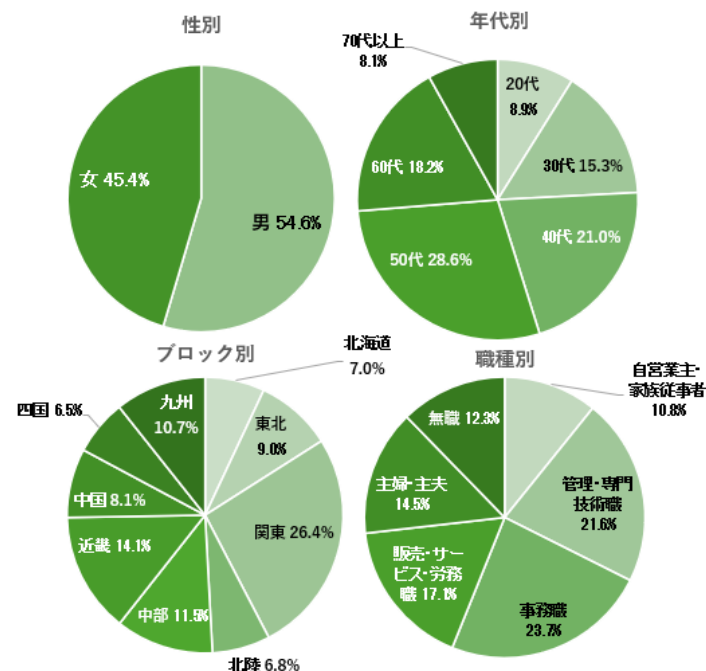
提供情報と課題

- ・「治安に関する情報」の掲載が求められていることがわかった。
- ・路線価情報の掲載については、一定以上のニーズがあることがわかった
- ・掲載情報については、「情報量が多く、探したい情報が見つけれない」という意見の一方、「見たい情報が少ない」という回答もあり、**現在の掲載情報が利用者のニーズにあっていない可能性がある**ことがわかった。

そのほか

- ・不動産取引自体が身近でないことや、不動産取引に関わる情報の用語がわかりにくいという意見があった。

■回答者の属性



■調査期間等

調査期間: 令和7年9月5日から9月25日まで
 対象者数: 1,073名
 回答者数: 1,016名
 回答率: 約94.7%

- 不動産情報ライブラリの一層の利活用を推進するため、不動産情報ライブラリのイメージキャラクター「不動産情報ライブラリス」が誕生
- さらに、広報活動用のチラシ・動画等も作成、ライブラリスが案内するキャッチーな内容として、イベントでの配布やYoutubeへの公開を実施



[前] [後] [ポーズ]

イメージキャラクター 不動産情報ライブラリス

https://www.mlit.go.jp/tochi_fudousan_kensetsugyo/tochi_fudousan_kensetsugyo tk17_000001_00069.html

※不動産情報ライブラリスは、生成AIにて作成したイラストです。

広報コンテンツ



コンセプトチラシ



操作説明チラシ



コンセプト動画
(買いたい編・売りたい編)

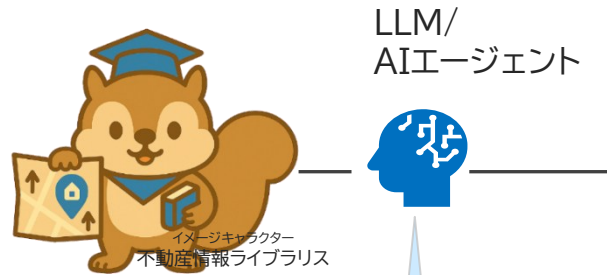
https://www.youtube.com/watch?v=OepkORT7hs&list=PL2R9Y_hjimJ_QBJV5eeBHUn3DbIKlBx_G



操作説明動画
(地図表示編・
価格情報検索編・スマホ編)

AIを活用して自然言語で多様な地理空間情報を取得・活用できる環境を提供

AIによる多様な地理空間情報の連携・活用を促進するため、「不動産情報ライブラリ」APIで提供する25種類の不動産取引に関するデータを対象とした「地理空間MCP Server」を試作・公開



LLM/AIエージェント

MCPを介して対象APIを判断・データ取得

MLIT Geospatial MCP Server

不動産情報ライブラリ

取得する地点とデータを指定
○○ビル周辺の土地の価格、用途地域、近隣駅の乗降客数を教えて

○○ビル周辺のデータは、
・地価公示は××地点○○円/m²
・用途地域は○○地域
・○○駅の乗降客数は××人/日

データ分析、GISデータでの一括DL

不動産取引に関する25種類のオープンデータ※



地価情報/取引価格
国土交通省地価公示、都道府県地価調査、不動産取引価格、成約価格



防災情報
ハザードマップ(洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等)、指定緊急避難場所等



都市計画
都市計画区域、区域区分、立地適正化計画等



地形情報
土地の起伏、大規模盛土造成地等



周辺施設
保育園、小学校区、中学校区、役場、医療機関、福祉施設等



人口情報等
人口統計、駅別乗降客数等



※本MCPでは、不動産情報ライブラリAPIで提供する上記35種類のデータのうち25種類を取得可能



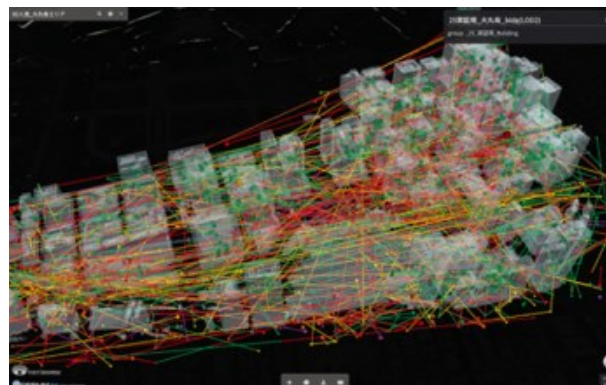
多様な地理空間情報の連携・活用の促進 (地理空間情報×AI)

事業名称	令和7年度三次元人流データを活用した課題解決等実証業務
業務内容	1) 地域行政の課題解決に資する三次元人流データの活用方法等の調査・検討 <ul style="list-style-type: none"> 三次元人流データの活用手法や課題について、有文献調査および有識者・民間等へのヒアリング 三次元人流データの取得・分析手法や市場価格についての調査、低廉な活用手法の調査・検討
	2) 三次元人流データを活用した地域課題解決手法の実証 <ul style="list-style-type: none"> 具体的な3地域において、三次元人流データの取得・分析・施策への提供・効果検証を実施
	3) 成果報告会の実施
	4) 業務成果を踏まえた三次元人流データの利活用拡大に向けた対応方策の検討

ヒアリング 12自治体 (PLATEAU等の3次元都市モデルが整備済、かつ複雑な立体構造のある地域)
 14事業者 (バンダーや測量・建設コンサル、ほか三次元人流データの活用可能性がある民間事業者)

実証 池袋エリア、大丸有エリア、八王子エリアの3地域での実証を実施中

- [池袋] 「①脱・駅袋」および「駅東西の回遊性向上」のための人流実態可視化
- [大丸有] まちづくり施策の効果検証(滞留箇所、移動軌跡)、防災観点での活用可能性の検討
- [八王子] 八王子セレオを起点とした中心市街地への人流実態把握、政策プランニング(ペDESTリアン整備優先度)



事業名称	令和7年度人流データにおける先進技術を活用した取得等コストの低廉化実装検討業務
業務内容	<p>1) AI等の先進技術を用いた人流データの活用手法の実証及びユースケースの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> (実証を効率的に実施するために) 人流データの活用における先進技術を活用する事例等について、Web調査や有識者ヒアリングを通して調査、優良な事例については追加ヒアリングを実施し詳細を把握 具体的な2～3地域において、先進技術を用いた/物理的・時間的コストの削減手法の実証 <p>2) 成果のとりまとめ及び人流データ活用普及イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> AI等の先進技術を用いた人流データ活用手法(コスト低廉化手法)の有用性を周知する普及イベントを実施

アンケート LocationMind・柴崎先生経由で、大学の研究者に回答を依頼 → 20件弱の回答

- ・小規模・低予算での導入事例
- ・技術的な低廉化の方向性
- ・人流データの活用目的
- ・横展開の課題
- ・コスト削減手法
- ・(低廉化に向けて)有効な技術・手法
- ・人流データ活用の今後の展望、技術発展の方向

実証 「コスト低廉化」から「人流利活用の最初の一步(ファーストステップ)」に方針を微修正して手法をピックアップ

- [九工大] **Raspberry PiとWebカメラによる小型・低コストなAI人流可視化システムの開発**
→ 成果物は国交省から公開せず、北九州工業大学側で公開・運用
→ [練馬区] **地域コミュニティ拠点へのAI人流カメラ設置実証**
- [RESAS] **地域経済分析システム(RESAS)新システムと活用事例の紹介**
- [三重県] **人流データを活用した観光施策の検討、AI観光レポートの作成**

カメラ画像からの人数計測方法

- YOLOv8 を使用して動画像からリアルタイムに人物のみを抽出
- 人物 (person) と認識した個数をカウント
- N回のカウント結果を集計し一定の周期で人数を算出

(例)
・人物の認識処理時間: 約100ms
・人数計測周期: 2s
とすると
20カウント値から人数を算出
(最頻値/平均値/最大/最小 など)



4 人流データの使い方の実例について②

AIが主要な変化状況とその要因を自動的にレポート化

- R7.9～11に「土地境界データの利活用に関するアイデア募集」および「利用状況・ニーズに関するアンケート」を実施
- これらの結果をもとに、10自治体分の地番現況図を共通の仕様へ変換した試作データを作成、公開
- また、利用者が自らこの仕様への変換を行えるよう、変換プロセスも併せて公開

地番現況図の共通の仕様への変換について

現在、一部の自治体で地番現況図がオープンデータとして公開されていますが、データの仕様は自治体ごとによって異なっており、データをダウンロードしてすぐに利用することや、多くの自治体のデータを統一して利用することが難しい状況です。

そこで、これまでのアンケートの結果や調査結果を踏まえ、一部自治体のオープンデータを共通の仕様へ変換した「土地境界データ(地番現況図) 試作データ」を作成しました。この試作データは10自治体分を対象としており、GeoJSON・Shapefile形式で以下からダウンロード可能です。

●土地境界データ(地番現況図) 試作データ (行政区画コード_都道府県名_市町村名)

- ・ 01395_北海道_二子町 (GeoJSON) (Shapefile)
- ・ 11222_埼玉県_越谷市 (GeoJSON) (Shapefile)
- ・ 22211_静岡県_磐田市 (GeoJSON) (Shapefile)
- ・ 23100_愛知県_名古屋市 (GeoJSON) (Shapefile)
- ・ 26100_京都府_京都市 (GeoJSON) (Shapefile)
- ・ 26209_京都府_長岡京市 (GeoJSON) (Shapefile)
- ・ 27228_大阪府_泉南市 (GeoJSON) (Shapefile)
- ・ 28210_兵庫県_加古川市 (GeoJSON) (Shapefile)
- ・ 29201_奈良県_奈良市 (GeoJSON) (Shapefile)
- ・ 34207_広島県_福山市 (GeoJSON[1]) (GeoJSON[2]) (Shapefile)

※広島県福山市のGeoJSONファイルのみ、当ページにおけるファイル容量上限の都合上ファイルを2分

●土地境界データ(地番現況図) 試作データ定義書

- ・ [土地境界データ\(地番現況図\) 試作データ定義書](#)

また、各自治体の地番現況図のオープンデータを利用する場合に参考となるよう、今回QGISを用いて実施し

- ・ [地番現況図の共通の仕様への変換プロセス](#)

○土地境界データ活用アイデアの概要

- 土地所有者・管理者データとの組み合わせ
 - ・ 公共用地と民間用地の分類。
 - ・ 水源や重要土地の外国人所有者等を抽出し、安全保障対応。
 - ・ 航空写真をAIで画像解析し、現況地目と登記地目の差異を自動判別。
 - ・ 国道・県道・市町村道や財務局管轄の法定外公共物など、境界立会の対象（道路管理者）を把握。
- 点群データとの組み合わせ
 - ・ 立体GISデータを構築し、ハザードマップやARで活用。
 - ・ 狭い道路をスキャンし点群データを取得、法務局地図データを基に拡幅・後退前後の道路状況を視覚化し、合意形成を支援。
- 建物情報（登記・課税）との組み合わせ
 - ・ 航空写真をAIで画像解析し、建物情報と現況の整合性を確認。
 - ・ 地図と空中写真で未登記建物と既登記建物を視覚的に区別し、災害時の被災建物特定を容易にする。
 - ・ 住所と建物は1対1で対応しない場合があるため、罹災証明発行時の建物特定を効率化できる。
- 価格情報との組み合わせ
 - ・ 土地の評価額をワンクリックで確認できる仕組みを構築。
- 文化財データとの組み合わせ
 - ・ 土地境界データから、現存しない古墳や古代道路、寺院、城郭等の敷地や建物位置の復元ができるケースがある。
 - ・ 文化財行政や地域史研究に活用。
- ハザード情報・都市計画情報・地価公示情報との組み合わせ
 - ・ 土地区画整理事業を簡易に体験できる教材を開発し、換地設計の難しさや合意形成の課題を直感的に学べる仕組みを構築。
 - ・ 実在地域を対象に、土地の価値や安全性を推定しながら区画を再設計。ロールプレイやゲーム要素を取り入れ、事業の意義を理解。
- 3D街路データ（googleearth）や街路写真（マビラリー等）との組み合わせ
 - ・ 県道や市道にはみ出た樹木の所有地確認に利用。官民の境界が確定していない場所でも、測量不要でおおまかな境界ラインを確認でき、行政と民間の認識すり合わせに活用。
- 法人登記データとの組み合わせ
 - ・ 地番現況図と法人登記データを照合し、土地に関係する人物や法人を特定。地番と住所の変換が必要だが、調査期間を大幅短縮可能。
- 住宅地図との組み合わせ
 - ・ 地番の検索性の向上や、見落としの防止を図る。

イチBizアワードとの連携(不動産情報活用部門)

- 内閣官房主催「イチBizアワード2025」において、国土交通省連携企画として「不動産情報活用部門」を新設
- 募集期間中、不動産テック協会と連携したエンジニア向けセミナーなども開催し、幅広い方へアプローチ

- 2025年度のG空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト『イチBizアワード』について、未来への可能性を秘めた自由な発想のアイデアから、事業化や事業のさらなる発展を目指すビジネスアイデアまで幅広く募集。
- **応募総数279件（昨年度172件）、協賛企業12社（昨年度7社）**となり、前年度以上の盛り上がりを見せた。
- 最優秀賞を含む各授賞アイデアを決定し、令和8年1月30日(金)に開催されたG空間EXPO2026会場（東京ビッグサイト）内で表彰式を実施。

【2025年度の取組】

①新部門の創設

アイデア部門、ビジネス部門に加え、国土交通省と連携し、不動産情報ライブラリで提供する不動産に関するオープンデータを活用したアイデアを募集する「**不動産情報活用部門**」を新設

②質を高める伴走支援

審査過程において、スペシャルアドバイザーを含む専門家による、アイデアとプレゼンテーションを磨き上げるための支援を提供

③関係省庁との連携

イチBizアワードの裾野拡大に向け、関係省庁を通じて、G空間施策に関連する団体やG空間を活用する事業者への募集告知

有識者審査員

一般社団法人 LBMA Japan 代表理事 川島邦之 氏
 株式会社デジタルベースキャピタル 代表パートナー 桜井駿 氏
 麗澤大学工学部准教授 塚田義典 氏
 インクルージョン・ジャパン株式会社 代表取締役/
 日本ベンチャーキャピタル協会 理事 服部結花 氏



スペシャルアドバイザー

DBJキャピタル株式会社投資部シニア
 インベストメントマネージャー
 石元良武 氏



協賛企業



12社
 (昨年度7社)



- 不動産情報活用部門としても多くの提案が寄せられ、優秀賞として2つの提案が受賞

🏆 不動産情報活用部門 優秀賞 🏆

審査員コメント

不動産情報活用部門の設置は業界の推進に意義がある。不動産業界は信頼データ不足が長年の課題であり、国交省の不動産情報ライブラリは高信頼データをAPI公開することで民間ビジネスの創出を後押ししている。審査は実装・実現性を重視したが、今後もアイデアの創出に期待したい。

提案タイトル

提案者名

地図太郎Lite×不動産情報ライブラリによる“地域をデータで学ぶ”教育プロジェクト

中高生が都市計画を視覚的に学べる教材として、教育用GISツール「地図太郎Lite」と不動産情報ライブラリを連携。地域構造や課題を読み解く学習を提供し、地理的思考力と情報活用能力を育成。

東京カートグラフィック株式会社 石川 泰正

地理空間データと独自開発AIをデジタルツイン上で統合・解析～まちづくりのデジタル産業インフラ～

不動産情報ライブラリに加え、地番・3D都市モデルなどのオープンデータを統合。独自開発の建物生成AIで建築可能な3Dモデルを迅速に生成。建築設計士が数日要していた作業時間を大幅に削減。

つくるAI株式会社 新谷 健

「ジオAI研究会」の開催について

- スマートシティや不動産、防災・減災やインフラ管理、ロボティクスや自動運転など、多様な分野のDXを支える地理空間情報の活用が広がる中、急速に進展するAIの技術と融合(地理空間情報×AI)することで、我が国経済・社会における地理的・空間的問題の解決が一層図られるとの期待が寄せられている
- これを踏まえ、「ジオAI研究会」では、ジオAI(地理空間情報×AI)に関する産学官の取組を戦略的に加速するため、その実現に向けた「課題・論点」や「取組の方向性」について議論を行う

委員等

- 【委員】 ◎:座長** (五十音順、敬称略)
- 井上 陽介 G空間情報センターセンター長/PwCコンサルティング合同会社ディレクター
 - 大橋 弘 東京大学大学院経済学研究科教授
 - 川島 邦之 一般社団法人LBMA Japan代表理事
 - 河端 瑞貴 慶應義塾大学経済学部教授
 - 清田 陽司 麗澤大学工学部教授/人工知能学会理事
 - 久保 信明 東京海洋大学学術研究院海事システム工学部門教授
 - 越塚 登 東京大学大学院情報学環教授
 - 坂下 哲也 一般財団法人日本情報経済社会推進協会常務理事
 - ◎ 柴崎 亮介 麗澤大学副学長/東京大学大学院情報学環・学際情報学府特任教授
 - 島崎 康信 株式会社パスコ研究開発センター未来創造グループグループ長
 - 高瀬 啓司 ESRIジャパン株式会社ソリューション開発グループ課長
 - 布施 孝志 東京大学大学院工学系研究科教授

【オブザーバー】

- 公益財団法人 日本測量調査技術協会
- 一般社団法人 地理情報システム学会

【関係省庁】

内閣官房、内閣府、総務省、経済産業省、国土交通省

【事務局】

内閣官房地理空間情報活用推進室(G空間室)、国土交通省、国土地理院

主な検討事項

- ① ジオAIをめぐる最近の動向
- ② ジオAIの概念整理、目指す姿
- ③ ジオAIの推進・実現に向けた「論点・課題」の整理
- ④ 産官学による「取組の方向性」(協調領域、競争領域)
- ⑤ 推進にあたって配慮・考慮すべき事項

当面のスケジュール

令和8年2月:研究会設置
 ~以降、月1回程度開催~
 令和8年5月頃:中間整理(予定)

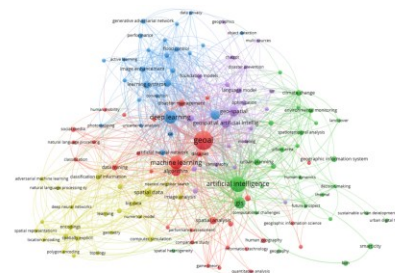


図1 GeoAIの学術領域ランドスケープ (VOSViewer 使用、著作作成)

地理空間を含んだマルチモーダルAIの到来

